

“あじび”は福岡アジア美術館の愛称です

# あじび ニュース

## Fukuoka Asian Art Museum News Ajibi News

“Ajibi” is a nickname of the Fukuoka Asian Art Museum

4

April 2020

vol.80

Japanese/English

### contents

#### exhibition

メッセージーアジア女性作家たちの50年  
2020年度 展覧会スケジュール

#### information

福岡ミュージアムウィーク2020  
博多旧市街まるごとミュージアム(仮称)

#### residence program

2020年度 レジデンス紹介

#### my favorite piece

私の逸品ーシム・ウヒョンさん

#### topic

あじびニュースがプチ・リニューアルしました

#### curator's essay

「黒田コレクション」に魅せられて



チャーリー・コー(フィリピン)  
「5年目に」1995年  
Charlie Co (Philippine)  
On the Fifth Year, 1995  
※7階受付横にて展示中  
Now on display beside  
the 7F reception area.

# メッセージ — アジア女性作家たちの50年

## Message – 50 Years of Women Artists in Asia

3月21日(土) – 6月23日(火) | アジアギャラリー  
Sat 21 March – Tue 23 June | Asia Gallery

### 「女性であること」を問う作家たちからのメッセージ

世界各地のさまざまな社会状況を背景に、多くの女性作家たちがメッセージ性の強い作品を生み出してきました。それは、男性中心の社会に異議を唱え、性差別の廃止や権利拡張を目指すフェミニズム運動が1960-70年代にかけて欧米を中心に広がりを見せ、美術界でもその運動に連動した表現が生まれたからです。アジア地域も例外ではなく、1970年代頃から人種や階級、宗教や民族間の紛争などの社会的な諸問題が性差に影響を及ぼしながら、さまざまな制約のなかで「女性であること」に向き合う切実な表現が生まれていきました。そうした動向は今でも続いています、特に現在では、人間の性は多様であるということを前提に、「女性らしさ」の意味が問い直されながら、日常に潜むさまざまな性差別や苦悩などを、インターネットなどを通して提議する動きが世界的に広がっています。

本展は、2020年という節目の年の最初のコレクション展として、1970年代から現在までの約50年間に制作されたあじび所蔵の女性作家たちの作品を紹介します。現在、あじびの所蔵作家に占める女性の

割合は、約11%という状況ですが、そのなかでも特に、自分自身の問題として「女性であること」に向き合いながら、それをテーマにすえた作家の作品を、〈1970-80年代〉〈1990年代〉〈2000年代以降〉の年代順に分けて紹介します。

〈1970-80年代〉では、根強い家父長制と伝統的な価値観に苦悩しながら、それまで描かれる対象であった女性たちが、自らの身体や社会に関心をよせ、「女性であること」に向き合い表現を模索した時代の作品を紹介します。〈1990年代〉では、多くの女性作家が台頭し、同時に美術表現が

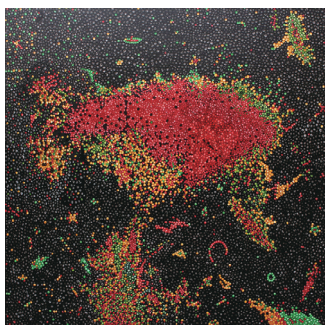
多様化するなかで、ジェンダー（社会的につくりだされた性差）という考え方がアジアの女性作家のなかで共有され、特に女性の社会的な地位や役割を問い直す作品に注目します。そして多文化主義の広がりにより、女性をめぐるアイデンティティの問題が複雑に社会と絡み合っていく〈2000年代以降〉では、伝統的な女性の手仕事と結びつく繊細な表現やアニメーションなどにより、女性作家の内面を表現した現代作品を紹介します。

[学芸員 趙純恵]



1990年代

ラギニ・ウパデハイ・グレラ (ネパール)  
「女」1999年  
Ragini Upadhyay Grela (Nepal)  
The Woman, 1999



2000年代以降

ジョン・ジョンヨブ (韓国)「祭り」2011年  
Jung Jung-yeob (Korea)  
Carnival, 2011



1970-80年代

イメルダ・カヒーベ=エンダーヤ (フィリピン)「ゴルゴダの地」1984年  
Imelda Cajipe Endaya (Philippines) Land of Golgotha, 1984

### On being a woman: the question these artists are asking

Women artists around the world have long created powerful works based on their various social situations. This is grounded in the feminism movement that gained ground in the West during the 1960s and 70s, in which women protested against male dominance, opposed gender-based discrimination and fought for their rights. Asian gender rights also experienced a wave of changes after the 1970s owing to racial, class, religious or ethnic conflict, and new works emerged to explore the female identity. While these movements are still relevant, in a current era where the idea of gender

itself is increasingly broad, people are once again questioning the meaning of femininity as the online world becomes our main platform for debate on gender equity and suffering.

This exhibition introduces FAAM works created by Asian female artists during the 50 years from the 1970s. Works by women artists make up just 11 per cent of our archive. We focus on pieces by artists that directly challenge the experience of being a woman, across the three eras of 1970s – 80s, 1990s and 2000s to the present.

—Cho Sunhe (Curator)

## 2020年度 展覧会スケジュール

## 4月 April 2020 \ 3月 March 2021 Exhibition Schedule

※展覧会タイトル、会期は変更することがあります Note: Exhibition titles and dates are subject to change.

特別企画展 | Special Exhibition

会場: 企画ギャラリー

NTT西日本スペシャル  
おいでよ! 絵本ミュージアム2020  
Picture Book Museum 2020

7月16日(木) - 8月23日(日)

※会期中無休・午後5時30分閉室(入室は午後5時まで)

Thu 16 July - Sun 23 August

\*Open 9:30am to 5:30pm (admission until 5pm)



子どもはもちろん大人にも人気の夏恒例の絵本展。14回目を迎える今年も、子どもならではの感性の大切さを伝えます。約1000冊の絵本や原画の展示をはじめ、五感に働きかける多彩な仕掛けやイベント、絵本の世界に入り込めるような空間をお楽しみに!

Our popular annual summer exhibition. Featuring over 1,000 picture books and original illustrations, this event is designed to stimulate all five senses and make visitors feel they have stepped inside the world of the books.

昨年の様子 Last year's exhibition

世界遺産 大シルクロード展  
World Heritage Great Silk Road

2月7日(日) - 3月30日(火)

Sun 7 February - Tue 30 March

2000年の遙かむかし、人々は未知の世界を求め、東から西へ、西から東に、道が出来ました。人・物・文化が行き交い、新しい文化を生んだ道「シルクロード」を、さまざまな文物でたどりながら、その背後にある悠久の歴史と美を紹介します。

This exhibition features various items that introduce the history and art of the Silk Road, which for 2,000 years gave rise to rich travels in people, goods and culture.



かつてシルクロードのオアシス都市として栄えた敦煌にある石窟「莫高窟」(参考)  
The Thousand Buddha Caves near Dunhuang, once a flourishing oasis town along the Silk Road (reference).

小企画展 | Temporary Exhibition

会場: アジアギャラリー

ラオスの現代美術(仮称)  
Contemporary Art from Laos (tentative)

9月26日(土) - 12月25日(金)

Sat 26 September - Fri 25 December

ラオスの美術と社会を徹底的に深掘り。ラオス発のアニメーション作品から環境破壊を告発する作品まで、昨今注目されはじめたラオス美術の最新線をどこよりも早く紹介します。

A deep exploration of the art and society of Laos. From animation works to pieces that decry environmental destruction, this exhibition at FAAM is one of the first to feature the cutting-edge art of Laos.



カンハ・シクナウォン&ドーンディ・カンタヴィライ  
「初期短編アニメ集」  
1998-99年  
Kanha Sikounnavong and Douangdy Khanthavilay Selected Early Short Animation Works, 1998-99

コレクション展 | Collection Exhibition

会場: アジアギャラリー

メッセージ—アジア女性作家たちの50年  
Message—50 Years of Women Artist in Asia

3月21日(土) - 6月23日(火)

Sat 21 March - Tue 23 June

→左ページ参照

→See Opposite Page

あじびヘアカタログ  
FAAM Hair Catalog

6月25日(木) - 9月22日(火・祝)

Thu 25 June - Tue 22 September

伝統的な女性の髪に、派手なカラーヘア、さらにはスキンヘッドの人も!? あじび所蔵品に描かれるさまざまな髪型を紹介します。



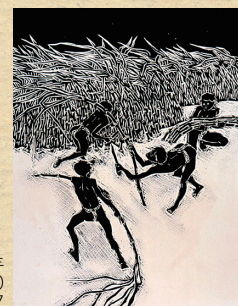
イユム(韓国)「生きている彫刻」1996年  
Ium (Korea) Living Sculpture, 1996

シュガー&スパイス~美術にみるアジアの特産物  
Sugar & Spice—Asian specialities in Art

1月2日(土) - 4月13日(火)

Sat 2 January - Tue 13 April

大シルクロード展にあわせて、砂糖やスパイスのほか、お茶やコーヒー、ココナッツ、果物など、アジアの特産物をテーマにした作品を特集します。



プラバン・シーソート(タイ)「サトウキビ農園」1967年  
Praphan Srisouta (Thailand)  
Sugar-cane Plantation, 1967

お知らせ | information

# Fukuoka Museum Week

## 福岡ミュージアムウィーク2020

毎年5月恒例の「福岡ミュージアムウィーク」。今年もあじびでは、多彩なイベントを予定しています。詳細はあじびHPまたは福岡ミュージアム情報HPをご覧ください。  
 Fukuoka Museum Week is held every year in May. This year we once again feature guest speakers and numerous events at FAAM. Check the website for more details.  
 [福岡ミュージアム情報HP] <http://f-museum.city.fukuoka.lg.jp/museumweek>

5月16日(土) - 24日(日) 9日間  
 期間中、アジアギャラリー入場無料、  
 各イベント参加費無料  
**Sat 16 - Sun 24 May**  
 Admission to Asia Gallery is free during  
 Museum Week (includes participation in events)

注目!

### トークショー 「映像で巡るアジア音楽のいま」



5月23日(土) 16:00~18:00  
 場所: あじびホール(8F)  
 講師: 大石始(ライター/旅と祭の編集プロダクション「B.O.N」主宰)  
 定員: 120名 ※要事前申込。詳細はHPをご覧ください

世界各地の音楽・地域文化を追いかける大石氏(主な著作・編著書に『奥東京人に会いに行く』『ニッポンのマツリズム』など)が、アジアの最新音楽シーンを、アーティストたちのビデオ・クリップを交えながら紹介します。

### あじび滞在作家によるトーク

5月23日(土) 13:00~14:30  
 場所: あじびホール(8F)  
 講師: リーロイ・ニュー(フィリピン、レジデンス招へい作家)、  
 チェン・イェン・ベン(マレーシア、UOB受入支援作家)  
 定員: 120名(事前申込不要)

2人の美術作家(右ページ参照)が、これまでの活動や福岡滞在中のプランを語ります。

### クラシック・コンサート

5月24日(日) 15:00~15:50  
 場所: アートカフェ(7F) 定員: 80名(事前申込不要)

九州交響楽団メンバーによる演奏会「九響@アートカフェ Vol. 5」を開催

### バックヤードツアー

5月17日(日)、24日(日) 13:00~14:00  
 集合場所: 総合受付前(7F)  
 定員: 各回20名(当日先着順・受付開始12:00~)

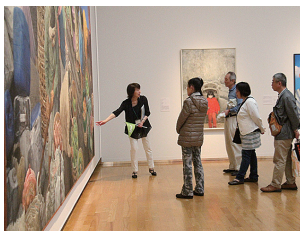
学芸員が、ふだんみることができない美術館の裏側を案内します。



### ギャラリーツアー

5月18日(月)、19日(火)、  
 21日(木)、22日(金)  
 14:00~14:30  
 集合場所: アジアギャラリー前(7F)  
 定員: 各回20名(当日先着順)  
 ※要アジアギャラリー・チケット

ボランティアが、展示中のあじび所蔵作品の解説をします。



### アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ

5月16日(土)、17日(日)、23日(土)、  
 24日(日) 11:30~12:00、13:00~13:30  
 場所: キッズコーナー(7F)  
 定員: なし(事前申込不要)

ボランティアが、アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせをおこないます。



速報 | News

## ART IN HAKATA OLD TOWN (tentative)

2018年からの、  
あの人気企画!

# 博多旧市街まるごとミュージアム (仮称)

中世に由来する歴史・伝統・文化が多く伝わる博多部を舞台に、現代アートを展示する「博多旧市街まるごとミュージアム」。今年は、これまでにないスケールの屋外アートイベントを計画中です。どうぞ、ご期待ください!  
 ※会期や出品作家については、7月号をチェックしてください。

Art in Hakata Old Town exhibition showcases contemporary art against the backdrop of Hakata, with its rich history, traditions and culture dating back to the Middle Ages. This year's event will feature outdoor artworks at a greater scale than ever before. See our July issue for more details.

「博多旧市街まるごとミュージアム2019」より(参考)  
 ハン・スンピル(韓国)「深緑の楽園一福岡」2019年、博多区東長寺  
 Han Sungpil (Korea) Greentopia-Fukuoka, 2019, Tochoji temple (reference)



# 2020年度 レジデンス紹介

## Introducing our 2020 residency artists

### 招へい事業 Residence Program

**Lee Byungchan** Korea/Artist

イ・ビョンチャン 韓国/美術作家

滞在日程：9-11月(80日)

Program Period: September to November (80 days)



1987年、韓国生まれ、ソウル在住。「平昌ビエンナーレ」や釜山現代美術館で、都市の奇妙な情景をビニール素材による動く生き物のようなインスタレーションにして発表。

Born 1987 in Korea, resides in Seoul. Lee gained acclaim for his creature-like installations inspired by strange sights in large cities, which he exhibited at the *Pyeongchang Biennale* and Museum of Contemporary Art Busan.



「生き物」2019年、釜山現代美術館(参考)  
Creature, 2019, Museum of Contemporary Art Busan (reference)

**Leeroy New** Philippines/Artist

リーロイ・ニュー フィリピン/美術作家

滞在日程：9-10月(30日)

Program Period: September to October (30 days)



Photo by Carlo Saavedra

1986年フィリピン生まれ、マニラ在住。「第4回福岡トリエンナーレ2009」であじび入口に大型立体作品を展示したリーロイが、今回10年ぶりにあじびに滞在します。

Born 1986 in the Philippines, lives in Manila. New exhibited a giant sculpture at the FAAM entrance for the *4th Fukuoka Asian Art Triennale 2009*, and is returning to Fukuoka for the first time in 10 years this year.



「アナサンゴ」2015年(参考)  
Astreopora, 2015 (reference)



「キメラ」2009年(参考)  
Chimera, 2009 (reference)

### 受入支援事業 Residence Support Program

**Cheng Yen Pheng** Malaysia / Artist

チェン・イエン・ペン マレーシア/美術作家

滞在日程：5-6月(30日)

Program Period: May to June (30 days)



1982年マレーシア生まれ、セランゴール在住。シンガポールで開催された「ユナイテッド・オーバーシーズ銀行絵画展2019」にて、マレーシア部門最優秀賞を受賞。あじびに1カ月滞在し、制作をおこないます。

Born 1982 in Malaysia, lives in Selangor. Cheng won the *2019 United Overseas Bank Painting of the Year Competition* (Malaysian division) in Singapore and will reside at FAAM for a month.

「綱引き：私のふるさと」2019年(参考)  
Tug of War: My Home Land, 2019 (reference)



### 2019年度2~3月レジデンス(受入支援事業)振り返り Recap: 2019 Residence Support Program

**Cheng Changhao** China/Researcher

チェン・チャンハオ 中国/研究者

滞在日程：2月12日-3月26日(44日)

Program Period: 12 February - 26 March (44 days)



フランスでの「醤油画資料館」の調査で、アジアの現代美術作品の保存に関心を持つようになりました。アジアは広く、社会や文化の状況も多様です。そこに西洋の保存修復の理論をどのように応用するのか、国や作家ごとの違いをどう尊重できるかに関心を持っています。

With my experiences of studying *Museum of Soy Sauce Art* in France, I had already started thinking how could we apply western conservation techniques to contemporary Asia. With its wide geography, Asia is home to a range of socio-political conditions. At FAAM I would like to discover, more deeply and in more detail, the current status of Asian contemporary art conservation and its research directions in the future.

1991年中国生まれ、フランス・アヴィニオン在住。アヴィニオン高等美術大学(保存修復学専攻)在学中。福岡では保存修復の観点から、あじび所蔵の小沢剛「醤油画資料館」およびアジア現代美術を調査しました。

Born 1991 in China and lives in Avignon, France. Cheng currently studies at the Avignon College of Fine Arts (Department of Conservation Science). During his stay at FAAM, Cheng studied archive piece *Museum of Soy Sauce Art* by Ozawa Tsuyoshi and other contemporary Asian art pieces from a conservation perspective.

チェンさんが調査したあじび所蔵の小沢剛「醤油画資料館」1999年(部分)  
Ozawa Tsuyoshi *Museum of Soy Sauce Art* 1999, Fukuoka Asian Art Museum (detail)



## 私の逸品

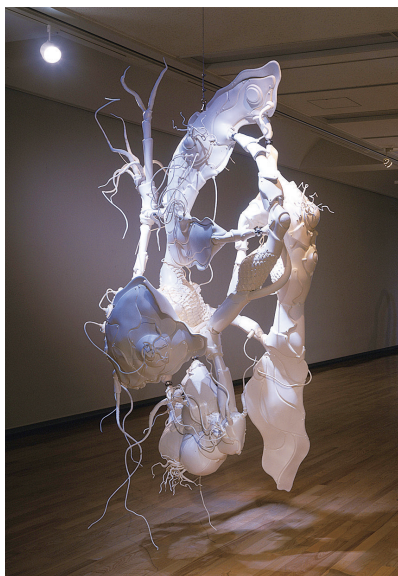
あじびコレクション展より

My Favorite Piece  
from the Asian Gallery

  
vol.47

各ジャンルで活躍する方々に、  
あじびでお気に入りの作品を  
選んでいただくコーナーです。

In this section, we invite special  
guests from various career  
backgrounds to name their  
favorite FAAM artwork.



イー・ブル(韓国)「さなぎ」2000年  
Lee Bul (Korea) *Chrysalis* 2000

推薦人

シム・ウヒョンさん

Work selection by Sim Woo Hyeon

ギャラリー港民館主宰。九州産業大学造形短期  
大学部准教授。韓国・蔚山(ウルサン)出身、  
2005年より福岡在住。今年で10周年を迎える  
WATAGATA Arts Networkの福岡側のディレク  
ターを担い、ツアーや展覧会など福岡と釜山のア  
ーティスト交流プログラムをおこなっている。  
2019年7月にリノベーションギャラリー冷泉荘(福  
岡市)に、ギャラリー港民館を開設した。

ギャラリー港民館 Facebook  
<https://www.facebook.com/gallerykominkan/>

The owner of Gallery Kominkan, and  
Associate Professor at the Kyushu Zokei  
Art College. Born in Ulsan, Korea and a  
resident of Fukuoka since 2005. As an  
appointed director of the Fukuoka  
operations for WATAGATA Arts Network,  
which celebrates its 10th anniversary this  
year, Sim has been involved in various  
tours, exhibitions and other exchanges  
between Fukuoka and Busan. In July 2019,  
Sim opened Gallery Kominkan inside  
Renovation Gallery Reisenso in Fukuoka.

## 「らしさ」のない、「性の概念」から解放されたような作品

アメリカの写真家、ロバート・メイプルソープの作品に隆々たる筋肉の女性の姿を撮った  
写真があります。僕はその写真を、女性らしさとか男性らしさという「性の概念」のない作  
品だと思っています。イー・ブルの《さなぎ》を初めて見た時、すぐにそのメイプルソープ  
の写真を思い出しました。見た目が筋肉のようだという表層的なものだけでなく、「性の概  
念」から解放されたような内面も含めて。男性中心主義の強かった1980-90年代の韓  
国社会において、先駆的に女性に目を向けた作品を発表してきたイー・ブルの姿勢を感じ  
る作品です。

## Unlike anything else: Sexuality, free of preexisting concepts

There's an image by American photographer Robert Mapplethorpe of a particularly  
muscular woman. To me, this image doesn't conform to conventional masculinity  
or femininity – it's free of preexisting concepts of sexuality. When I first  
encountered *Chrysalis* by Lee Bul, I immediately recalled that Mapplethorpe piece.  
Apart from having a superficial resemblance to musculature, Lee Bul's work has an  
inner quality that goes beyond gender. Lee Bul was a pioneer for women artists,  
with her works focusing on the female perspective during the male-dominated  
Korean society of the 1980s and 90s. To me, this piece typifies her approach.

学芸員から一言  
Curator's comment

メイプルソープといえば、カッコよかったニューヨーク  
1980年代アートシーンがよみがえる。よく考えれば、  
ファッションブルで古典的ながらSMや同性愛などの性  
的タブーに挑戦したメイプルソープのモノクロ写真は、  
「性」を越えたピュアで高貴な「さなぎ」を思わせなく  
もない。都市文化の汚辱のなかで傷つきながらも昂然と  
立ちあがる神性。時代も地域も表現手段もまったく異な  
る二人を結び付けたのは、韓国人写真家のシムさんな  
らでは。[黒田雷児]

I can't think of Mapplethorpe's work without recalling  
the cool art scene of 1980s New York. His monochrome  
photographs are fashionable and classic in tone, yet  
they challenge sexual taboos such as S&M and  
homosexuality. This is also evident in Lee Bul's *Chrysalis*,  
a kind of pure and noble icon that goes beyond  
conventional sexual differences. Both artists explore the  
deities that confidently rise up, though wounded, from  
the dirty and humiliated parts of a metropolis. And  
none other than Korean photographer Mr Sim can find  
these similarities between the two artists, from the  
deepest layer of their art. —Kuroda Raiji

## TOPIC

## Ajibi News gets a mini refresh

裏表紙をまずご覧になって、あれれ?と思われた方  
も少なくないのではないのでしょうか。はい、今号より  
紙面の一部をリニューアルしました。表紙から順を  
追って説明すると、展覧会記事をいままで以上にし  
っかりとお伝えする構成に変え、あじび学芸員によ  
る新連載エッセイのスタート、そして裏表紙は発行  
期間中に見られる展覧会をダイジェストにてお届け  
するようにしました。これまでのニュース的な紙面に  
読み物の要素を加え、より充実を図ります。今後も  
ご愛読のほど、よろしくお願いたします!

プテ  
あじびニュースが  
リニューアル  
しました

As you will have seen from looking  
at our back cover, *Ajibi News* has  
had a light refresh. Starting from  
the front, we've introduced some  
more in-depth exhibition  
overviews, and a new essay series  
by our curators. On the back page,  
we now carry insights on  
exhibitions in progress. Readers  
will get an even richer perspective  
on events at FAAM. We hope you  
continue to enjoy the newsletter.



ラージャー・ラヴィ・ヴァルマ「シャンカール(シヴァとパールヴァティ、ガネーシャ)」(石版画)1930年以降、黒田コレクションより  
Raja Ravi Varma Shankar, Post 1930; Kuroda Collection

今年、あじびの所蔵品に、インド大衆宗教画のガラス絵や石版画など342点もの作品が加わりました。その作品をもとと所蔵されていたのは、黒田豊氏。1970年代末から40年以上インドに通い続け、サラリーマン・コレクターとしてコレクションを積み重ねてこられました。この間に集められたコレクションは、ガラス絵、石版画、木版画、カンパニー絵画、タントラ、ポスター、洋書の挿絵、地図、さらにはインド向けに輸出された日本の陶器やマッチラベルなど5000点以上ののぼりです。その魅力は、なんといっても、イギリス植民地時代のインドに生きた人々の信仰や流行、世俗的な興味関心など大衆の息づかいが感じられる作品群であることです。さらに興味深いのは、その一つひとつの作品について、関連する和洋書の資

料とともにコレクションが形成されてきた点です。19世紀後半から20世紀前半のインドに広がった、膨大な視覚表現の海を見渡すための道しるべとなるこれらの資料には、黒田氏が作品に隠された楽しさを味わうために読み込んできた痕跡が残ります。今回、このコレクションと資料とを合わせて一括寄贈いただき、今後、段階的に受け入れていく予定です。



作者不詳「伊達男と愛妾」(ガラス絵)19世紀末-20世紀初頭、黒田コレクションより  
Artist Unknown Dandy and Courtesan, glass painting, late 19th century to early 20th century; Kuroda Collection

私が「黒田コレクション」を目にしたのは、黒田氏が作品を初めて一般公開された「インド大衆宗教画の世界」展(東海大学文学部、2009年)でのことでした。当時、インドに魅せられた日本のアーティストやコレクターを紹介する特別展「魅

それから、8年。「黒田コレクション」をあじびの収蔵品として迎えました。それは、あじびの一つの魅力となるだけではなく、今後、私たち学芸員が時間をかけて研究し、いかに展覧会に作り上げていくかという課題ともなります。これまで、アジア地域にあるアジア美術を収集してきたあじびですが、今後はさらに日本に眠るアジア美術へも目を向けていく、その姿勢を物語るコレクションなのです。

新連載

あじび学芸員エッセイ

01

Curator's essay

## 「黒田コレクション」に魅せられて Captivated by the Kuroda Collection

五十嵐理奈  
Igarashi Rina

This year, we have added 342 Indian works to the FAAM collection including glass paintings, oreographs and other variations on Indian popular religious art. The previous collector of these works was Kuroda Yutaka. Known as a 'salaryman collector,' Kuroda began his collection over a 40-year period starting in the end of 1970s. Glass paintings, oreographs, woodblock prints, company paintings, Tantric art, posters, Western book illustrations, maps and even Japanese-made ceramics and match labels exported to India all make up the 5,000-plus collection.

An intriguing point is that the works provide insights into the beliefs and customs of a colonial-era India, especially of the people. Also interesting is that all items have been documented with Japanese or English texts. The collection and its supporting materials have all been donated to FAAM, and will be revealed to the public in stages.

I first came across the Kuroda Collection in 2009, when it featured in the *World of Indian Popular Religious Art* exhibition at Tokai University. I was preparing for the 2012 special

exhibition *Collecting India: Fascination with Indian Visual Culture in Contemporary Japan* at FAAM and decided to visit the Kuroda archives. We included a portion of Kuroda's collection in our exhibition, but I always felt it deserved to stand on its own as an introduction to the imaginative outputs of the Indian people.

That was eight years ago, and the Kuroda Collection is now part of the FAAM archives. Apart from being a great asset, the collection will allow our curatorial team to study this topic more and develop more exhibitions. FAAM has already compiled valuable works from across Asia, and this provides an opportunity for us to uncover more Asian artworks already held in Japan.



「魅せられて、インド。」展会場風景、2012年  
Exhibition view at FAAM, 2012

## 展覧会ピックアップ!

2020年4月⇒6月

コレクション展 | Collection アジアギャラリー | Asia Gallery

### メッセージアジア女性作家たちの50年 Message — 50 Years of Women Artist in Asia 3/21(土) - 6/23(火)

1970年代から現代までの約50年間、アジア各地で活動し、力強いメッセージを発し続けてきた女性作家の作品を紹介。当時の社会状況などを解説しながら、作品に込められたメッセージを読み解きます。



カンチャン・チャンドル(インド)「見捨てられた女王」1992年  
Kanchan Chander (India) *The Forlorn Queen*, 1992

→詳細はP2参照

The exhibition introduces the powerful works of Asian women artists over 50 years, from the 1970s to the present. Works are accompanied by an explanation of the social context of the time (see P2 for more details).

コレクション展 | Collection アジアギャラリー | Asia Gallery

### あじびコレクションX ①「1988年、フィリピン」 FAAM Collection X: Vol.1 The Philippines in 1988 3/21(土) - 6/23(火)

関連するテーマのもと、2点の作品を対比して展示するシリーズ。今回は、1988年のフィリピンで制作された2作品を通じて、1980年代のフィリピン社会と文化状況を考えます。



ジュリー・ルーク「玉ねぎを切るたびに泣いてしまう」1988年  
Julie Liuch *Cutting Onions Always Makes Me Cry*, 1988

This series presents two works on a related theme and compares them. Here, we explore social and culture in the Philippines of the 1980s, through two unrelated works created in 1988.

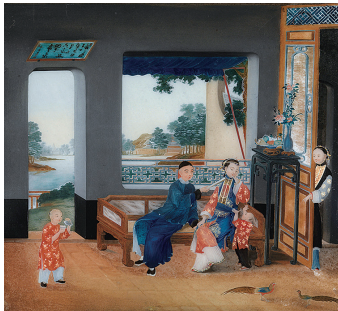
アジアギャラリー入場料: 一般200円 高大生150円 中学生以下無料  
Asia Gallery: Adult ¥200 College & High School ¥150 \*Free for Secondary school and under

※アジアギャラリーでは、毎日13〜16時にボランティアによる作品解説をおこなっています。お気軽にお声をおかけください。

コレクション展 | Collection アジアギャラリー | Asia Gallery

### アジアの近現代美術〜黎明期から激動の現代まで Modern and Contemporary Asian Art 12/2(月) - 開催中

アジアの近代から現代までの美術の流れをたどります。また、現代美術は「大なる力」「争いのなかで」「ゆたかな世界」の3コーナーに分けて展示しています。



The exhibition explores movements in Asian art from the Modern era to the present. The contemporary section is divided into three sections: Great Spirit, In the Battle and A Developed World.

作者不詳(中国)「中国人家族」清時代(18世紀)  
Artist Unknown (China) *Chinese Family*, Qing Dynasty (18th century)

レジデンス事業 | Residence Program アジアギャラリー | Asia Gallery

### あじびレジデンスの部屋 第1期—今年度のレジデンス紹介 Room for FAAM Residence Program: Vol.1 Introduction of the 2020 Residence Program 3/21(土) - 6/23(火)



今年度のレジデンス作家と、あわせて2019年度の受入支援研究者チェン・チャンハオ(中国)の福岡での活動を紹介します。

In conjunction with the 2020 FAAM residency program, we also feature the research by Chen Changhao (China), a resident researcher of the 2019 Residence Support Program.

あじびでは、ふくおか応援寄付(福岡市へのふるさと納税)を募集しています。  
アジアの美術作品の購入にあてさせていただきます。ホームページをご覧ください。

ふくおか 応援寄付 アジア美術館

検索

 **福岡アジア美術館**  
Fukuoka Asian Art Museum

<https://faam.city.fukuoka.lg.jp> TEL 092-263-1100  
〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8階  
7・8F Riverain Center Bldg., 3-1 Shimokawabata-machi, Hakata-ku, Fukuoka, 812-0027 Japan

#### 交通

##### 市営地下鉄

中洲川端駅下車、6番出口より徒歩すぐ  
福岡空港駅より9分 / 博多駅より3分 / 天神駅より1分

##### 西鉄バス

川端町・博多座前バス停下車、徒歩すぐ

##### 車

太宰府方面から都市高速千代ランプより車で約7分  
北九州方面から都市高速呉服町ランプより車で約5分  
※昭利通りより、博多リバレイン地下の駐車場(有料)を御利用ください

#### Access

##### By City Subway

Alight at Nakasu-Kawabata Station and take Exit 6  
From Fukuoka Airport Station: 9 minutes / From Hakata Station: 3 minutes / From Tenjin Station: 1 minute

##### By Nishitetsu Bus

Kawabata-machi/Hakataza-mae bus stop

##### By Car

From Dazaifu: 7 minutes from Chiyo Ramp, Urban Expressway  
From Kitakyushu: 5 minutes from Gofukumachi Ramp, Urban Expressway  
\*Enter Hakata Riverain Bldg underground parking from Showa-dori

